



小さき兄弟会

地球の叫びと貧しい人々の叫び

被造物の保護に関するOFMスタディガイド

兄弟太陽の歌

このうえなく、全能の、善い主、
賛美、栄光、誉れ、また、祝福のすべては
あなたのもの。

それらは、この上なく高く、あなただけのものです。
あなたの御名をふさわしく口にできる者一人もいない。

私の主、あなたはたたえられますように
造られものすべて とりわけ、兄弟太陽と共に、
太陽は昼を治め、その光であなたは私たちを照らします。

太陽は美しく、燃えるように輝き、
この上なく高い方、あなたの姿を現します。

私の主、あなたはたたえられますように、
姉妹月と星によって。
あなたは、空に月と星々を 明るく、気高く、
美しく造られました。

私の主、あなたはたたえられますように、
兄弟風によって。
また、空気、雲とれ渡った空、あらゆる天候によって。
これらを通して、あなたはお造りになったものを支えられます。

私の主、あなたはたたえられますように、
姉妹水によって。
水は、益多く、謙遜であり、
貴重で、清らかです。

小さき兄弟会

地球の叫びと
貧しい人々の叫び

被造物の保護に関する OFM スタディガイド

ローマ 2016年

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| はじめに | 7 |
| 前書き | 9 |
| 聖書学的側面 | 11 |
| 教会論的側面 | 14 |
| フランシスカンの側面 | 16 |
| 科学的側面 | 19 |
| 実践..... | 21 |
| I. 私たちの生活様式を見直す | 22 |
| II, 新しい生活様式の識別 | 24 |
| III. 新しいライフスタイルを生きる | 26 |
| 兄弟共同体と構成単位（管区または分管区）のためのプラン | 26 |
| 管区や分管区でエコ計画を立てるのに役立つと思われる資料 | 29 |
| 被造物とともにささげるキリスト者の祈り | 29 |

はじめに

獣に尋ねるがよい、教えてくれるだろう。
空の鳥もあなたに告げるだろう。
大地に問いかけてみよ、教えてくれるだろう。
海の魚もあなたに語るだろう。
彼らはみな知っている。主の御手がすべてを造られたことを。
すべての命あるものは、肉なる人の霊も
御手の内にあることを。
(ヨブ記 12:7-10)



ヨブ記はこれらの詩的な言葉で人間に呼び掛けています、心を開いていつでも、獣、鳥、魚、そして大地から教えてもらうようにと。この一節は、善意の人々、特にフランシスカンの伝統の豊かさに心を揺さぶられた人々の共感を呼びます。

皆さまがこれから読まれるこの小冊子も、私たちを取り巻く世界に心を開き、私たちの共通の家であるこの小惑星に住むすべての生き物に耳を傾けるようにと呼び掛けています。この小冊子は、地球の叫びと貧しい人々の叫びが無視されて

いることへの差し迫った懸念と、私たちがフランシスカンとして、この世界の、特にそこに住む人々の癒しに独特の貢献をしながら、対話のできるパートナーとならなければならないとの切実な思いから生まれています。

この小冊子は、フランシスカンの伝統と聖書の伝統に根ざしながらも、その同じ伝統が現代科学と連携していることを敢えて強調しています。これは、2015年の総集会の明確な望みであり、総集会は、被造物の統合に関して、聖書学、教会論、フランシスカンおよびその他の研究機関とともに、ガイドブックを作成するように求めたのです¹。神学と科学では視点は異なりますが、それぞれの視点を合わせることで初めて、三次元の深みを持つ宇宙を捉えることができます。ジョナサン・ザックス師（ラビ）が言っているように、「科学は説明を探し求め、宗教は意味を探し求める」のです²。私たちフランシスカンは、科学のすべてと知力を合わせて、我々自身の洞察力を完全なものにしなければなりません。

教会と本会の先の文書、特に「ラウダート・シ」と共にこの小冊子が目指しているのは、諸管区（構成単位）および兄弟の皆さま全員が、現代のエコロジー問題に答えることがで

¹ 「福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく」決定事項 10。

² *The Great Partnership. God, Science and the Search for Meaning*, 2011.

きるような指針を与えることです³。世界に対する私たちフランシスカンのコミットメント（行動責任）というまさここの側面を強調したいと思います。より小さい兄弟である私たちは、聖フランシスコの模範に衝き動かされて、神の民の叫び、神の被造物の叫びをもっと深く理解できるように「行動」に移すことが求められています。行動を通して、兄弟姉妹の生活の中に、そしてすべての生き物の中に、神の御業の美しさと不思議さを感じ取ることのできる神秘家に、信仰の人になるように招かれています。すべての被造物は、共に神に栄光を帰し、互いに愛と気遣いで仕え合うように招かれています。この資料をお使いになるすべての方々に、感じ取り、行動するそのやり方を見直し、生活様式を再構築するようにお勧めします。それは、神の霊が私たち一人ひとりの中に、すべてを愛と正義のうちに抱きしめるような「総合的な（インテグラル）エコロジーの視点」を作ってくださいるためです。地球の叫びと貧しい人々の叫びを聞こえなくする障害物を取り除くことができるよう、神が私たちの中に愛と慈しみの神秘をもたらしてくださいるように。私たちの応答は急を要します。人類も地球も、もう待てないところまで来ているのです。今すぐ行動しなくてはなりません。

「さあもう一度始めましょう。これまでのところほとんど、いや全く何もしてこなかったのだから。」⁴

2016年7月26日、ローマにて、
使徒聖ヤコブの祝日に。

総長にして僕である
兄弟マイケル・アンソニー・ペリー、OFM

Prot. 106652

³ 同上。

⁴ 1 チェラノ 103 参照。

前書き



地球の叫びと貧しい人々の叫びはもはや無視することはできません。緊急の対応が必要とされています。教皇フランシスコの歴史的な回勅「ラウダート・シ」⁵は、環境危機についてのパワフルなメッセージを全世界に向けて発信しました。私たちフランシスカンは、可能な限りの方法で、「神の道具として、被造世界を世話するために協力する」⁶ように求められています。

2015年の総集会は、前の総集会⁷に引き続き、被造世界の世話のために具体的な兄弟関係を構築するようにと促し続けています。総集会は「ラウダート・シ」の発行に先立ち、次のような二つの決定事項を採択しました：

総理事会は、被造物の総合に関して、聖書学、教会論、フランシスカンおよびその他の研究機関とともに、ガイドブックを作成し、またそれぞれの兄弟共同体が現代のエコロジーの問題に応えるための指針を提供する。⁸

各構成単位（管区）は、生涯養成の企画実行を担当する兄弟、福音宣教および JPIC のアニメーターである兄弟と、このガイドブックを活用し、兄弟会のカリスマである被造物の保全が、私たちの生活の一部となり、共同体における私たちの個人的・社会的活動を担うものとなるようなプロジェクトを発展させる。この課題は、管区長協議会議長と総理事会の会合の場で評価される。⁹

これらの決定事項に従い、短い資料をここにご用意いたしました。この資料が、新たな実践へと向かう具体的な第一歩を踏み出すように、兄弟たちを励ますものとなることを願っております。本会がすでに発行した JPIC の価値観についての考察が私たちの出発点となっていますが、体験こそは、理解し学習するための素晴らしい方法であることを信じております。

2015年の総集会は、私たちが数々の急激な変化を体験していると主張しています。例えば、グローバル化に伴う経済革命、デジタル革命、生命倫理問題などです。これらの変化により、新しい形の貧困や、気候変動のような複雑な環境問題、森林破壊、生物多様性の喪失などが生まれています¹⁰。これらの問題に直面しながら、私たちフランシスカン

⁵ ラウダート・シ：48

⁶ ラウダート・シ：14

⁷ 2009年の総集会の決議：福音の賜物の使者 45 参照。

⁸ 福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく：決定事項 10。

⁹ 福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく：決定事項 11。

¹⁰ 福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく No 3 参照。

に何ができるか、なぜ専門家に任せないのかと思う人がいても当然です。しかし、目を背けて、修道院の中に閉じこもることはできません。皆がともに暮らす家が著しく傷つけられていることを理解するためには、事実への率直な視線だけはどうしても必要です¹¹。ですから、この文書の原動力とは、自分の現在の生活様式（その中で、私たちは時として地球の資源を、それがまるで無限であるかのように消費しています¹²）を問い直そうとする願いです。それによって、私たちは新しい生活様式を大切にすることができます。

教皇が述べている「エコロジカルな霊性」というものを積極的に推進していかなくてはなりません。この霊性は、自然との傲慢な人間中心的な関わりを超え、自分が「より小さい者」として、被造世界を含むすべてのものに服従すべきであること¹³ (*et est subditus omnibus*、と聖フランシスコは言っています) を謙虚に認めるように求めています。適切な人間論なしのエコロジーなどありえません¹⁴。尊敬と感嘆と驚嘆と感謝の新たな態度が、この新しい関係の礎であるべきです。実際に、地球の保護について語る前に、私たちをかくも良く守ってくれる神とその被造世界にまず感謝することが大切です。「私たちは神ではありません。大地は、私たちより前から存在し、それは私たちに与えられたものです。¹⁵」 私たちが口にする食べ物、身にまとう衣服、そして吸う空気は、私たちに与えられた神の創造の賜物なのです。「全物質界は、神の愛を、私たちへの神の限りなき愛の思いを語っています。土壌、水、山々、つまりあらゆるものは、いわば神の愛撫です。」¹⁶

ただし、霊性は行為に転換されなくてはなりません。つまり、心からの「エコロジカルな回心」へと招かれているということです。それには、足りないものことばかり考える不幸せに屈しないだけの、感謝と堅実さと節度という、少しで満ち足りる能力が含まれます¹⁷。この新しい生活様式は、より小さくあること (*minoritas*) を大切にするフランシスカンの価値観に支えられ、あらゆる種類の辺境にも格別の配慮をしながら、絶えず生き方を新たにするように求めています。それは、なるべく消費を減らし、なるべく環境に優しくあるようにとの招きなのです。「私たちは居心地の良い家から、外に出て、辺境へと出かけていくようにと、再び召されています。¹⁸」 これらすべては、貧しさと単純さというフランシスカンの生活様式を明確に反映しています。それも、その生活様式そのものが素晴らしいのではなく、神が私たちに関わるためにお選びになった形が素晴らしいのです。神ご自身が私たちのために単純に、貧しくなられたのです。新しくされた生活様式を通して、私たちは貧しい人々、このエコロジー危機の真の犠牲者により近づくことができます。

11 ラウダート・シ 61。

12 ラウダート・シ 106。

13 諸徳への挨拶 16 参照。

14 ラウダート・シ 118。

15 ラウダート・シ 67。

16 ラウダート・シ 84。

17 ラウダート・シ 216–219、222 参照。

18 福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく No 32。

そういう理由から、この資料をすべての兄弟の皆さまに供します。皆さまが地球の叫びと、現代の貧しい人々の叫びに具体的な形で応えることができますように願っております。

聖書学的側面

「ラウダート・シ」の中で教皇フランシスコは、創世記 1:28 がいかに誤解されているかを指摘しています。聖書の一節「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ」は、人間の目的のために自然を乱用してもよいと誤解されてきたのです。しかし、天地創造の物語をもっと深く理解すれば、次のような視点に導かれます：



まず、神は万物の造り主です。神だけが、すべてのものを生み出すのです。では、神の造られた世界では、私たちは何者で、私たちはどこにいますか？次に、神は万物の造り主でありながら、その力を分け与えてくださいます。神は被造物をその目的に向かって優しく導いてくださいます。大地は草木を生い茂らせ、水はたくさんの生き物を生み出し、太陽と月は昼と夜をつかさどり (rādā)、そして人間は、大地を支配する (rādā) 実質的な権限を委託されてきました。支配する権限は神から賦与された、あるいは委託されたものであって、私たちのものではないのです。私たちは、神のこの寛大さに対して、どのように応えることができるのでしょうか？第三に、天地創造は秩序と調和の宇宙です。まずカオス（混沌）があり、神は万物への愛の御計画から、天地創造によって秩序と組織をもたらされました。すべての生き物は、この素晴らしい複合体の中で機能し、果たすべき役割を持っています。それは、アシジの聖フランシスコと教皇フランシスコが言っているように、驚嘆と感謝とともに、畏敬の念を呼び起こす何かなのです。第四に、天地創造は善です。神が望まれ、意図されたもので、まことに善いのです。宇宙は戦争や闘争で生まれたのではなく、神の御言葉と御業によって、何の無理も苦労もなく生まれました。人類もまた、初めは互いに相手に対して牙をむく存在ではなく、善なるものとして、互いに対して、またすべての被造物に対して責任あるものとして造られました。第五に、地球は、地球に住むすべての生物の家です。人間だけのための家ではなく、神の造られた万物のすみかなのです。人間だけが神から祝福されているのではなく、鳥も魚も、すべての被造物が神に祝福されています。私たちはこれから地球を、もっぱら人間の共同体だけではなく、地球家族とか地球共同体という観点から考えなくてはなりません。人間一人ひとりを、生き延びるために、常に他者と戦闘態勢にある存在と考えるてしまうなら、どんなひどいことになるのでしょうか。最後に、聖書によれば、天地創造の物語の頂点は安息日 (Shabbat) です。この物語を何度読んでも、六日目に人間が造られた時が頂点になるのではなく、クライマックスは、七日目、すなわち、神に聖別された日なのです。安息日、つまり、神に祝

福された七日目は、世界が神の愛の御手にあることを気づかせてくれます。私たちが働くのをやめれば、世界は崩壊しないと告げているのです。生活は人間の熱狂的な活動に依存しているわけではないからです。安息日を祝うことによって、世界も、私たちのいのちも、神から贈り物としていただいているに過ぎないことに気づかされます。教皇フランシスコはこう言っています：「主日は、ユダヤ教の安息日と同様、私たちが神との、自分自身との、他者との、世界とのかかわりを修復するための日です。[・・・]休息は、より広い視野をもてるよう私たちの目を開かせ、他者の権利にあらためて気づかせてくれます。」¹⁹

さらに、二つ目の創造の物語、創世記 2:15 では、こう述べられています：「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。」このくだりに、教皇フランシスコは新しい視点をもたらしています。つまり、「耕す」とは、培うこと、鋤くこと、働きかけることであり、「守る」（ヘブライ語で shomer）とは、世話し、保護し、見守り、保存することを意味すると言うのです。²⁰

詩編は、「善」にましまし、「造られたすべてのものを憐れんでくださる」神への絶えざる賛美の歌です²¹。神の慈しみはとこしえです²²。詩編はまた、他の被造物も私たちの賛美に加わるよう招きます：「日よ、月よ、輝く星よ、主を賛美せよ・・・」と（詩編 148 参照）。²³詩編と知恵文学は、すべての被造物の相関関係について、宇宙家族ともいえる、崇高な交わりについて語っています²⁴。預言書はまた、天地創造と解放を神と密接に結びつけています。²⁵

最後に、新約聖書では、イエスは神を天地の主であり、父であると強調しておられます²⁶。すべての被造物は神にとって大切であると、次のように言うておられます：「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。²⁷」また、イエスご自身も被造界と調和しておられ、「いったい、この方はどういう方なのだろう。風や湖さえも従うではないか」²⁸。なぜなら、キリストは、万物がそれによって存在するようになったロゴスだからです²⁹。キリストは被造界の目的、すなわちテロス（目的因）なのです。世の終わりの時、イエスは万物を御父のもとに返し、人間だけでなく、すべてのものが神の現存に満たされるのです³⁰。

¹⁹ ラウダート・シ 237。

²⁰ ラウダート・シ 67 参照。

²¹ 詩編 145:9。

²² 詩編 136 参照。

²³ ラウダート・シ 72。

²⁴ ラウダート・シ 89。

²⁵ エレミヤ 32:17-21;イザヤ 40:28b-29 参照。

²⁶ マタイ 11:25 参照。

²⁷ マタイ 6:26。

²⁸ マタイ 8:27。

²⁹ コロサイ 1:16;ヨハネ 1:1-18。

³⁰ コロサイもとに 1:19-20;1 コリント 15:28。

これらの聖書に書かれていることが私たちにはっきりと教えているのは、私たちに地球を守る責任があることだけではなく、次の4つのことを謙虚に認めるようにということです。すなわち、人間が万物の中心ではないこと。第二に、人間は万物の基準ではないこと。第三に、私たちは人間としてのアイデンティティーと召命を識別しなければならないこと。第四に、平和と調和の視点に、礼節とエコロジカルな責任の霊性と倫理に招かれているということです。この点で、ヨブの物語について研究し、考えることは意味があります。ヨブは、大胆にも神に問い詰めましたが、最後には神と万物の前で自分の居場所を受け入れざるを得ませんでした。

教会論的側面



生命倫理や社会倫理の方に属すると思われる環境保護の問題を教会と結びつけるのは、いささか奇異に映るかもしれませんが。しかし、環境を愛と責任をもって維持する義務は、私たちが神の似姿として造られたことに由来しており、私たちは神の子として³¹、ますます「神の本性にあずからせていただく」³²ように招かれています。この聖書的な礎を出発点として、生命倫理と社会倫理に配慮する神学は、被造物、すなわち「皆がともに暮らす家」の保護というテーマに取り組むことができます。実際、教会の本質と聖体を中心としたその生活が、教会を被造物の保護への行動責任と結びつける根拠となっているのです。なぜなら、教会は「神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具であるから」³³、また、聖体は教会の活動の「源泉であり頂点である」³⁴からです。

被造物との関わりをテーマとする教会の姿は、私たちにも、聖体を通していのちに近づくように励ましています。「聖体は宇宙のいのちの中心であり、愛とくみ尽すことのできないいのちがあふれ出る泉です。・・・聖体は、被造界全体の信託管理人であるよう私たちを導く、環境への関心を照らし生かす光と力の源でもあります。」「³⁵このことが、私たちをメンタリティーの変換へ、「エコロジカルな回心」³⁶へと導くのです。

聖体祭儀は特に奉納において、自然環境を、皆がともに暮らす家を、愛し大切にすべき賜物として思い描くのを助けてくれます。なぜなら、それは私たちが神に捧げるものだからです。将来は、世界は「新しい被造物」として、神の御計画の一部として、神の子を継承することでしょう。被造物の未来は終末論的です。「顔と顔とを合わせて神の無限の美しさに出会う（1コリント 13:12 参照）時」³⁷、その運命は成就されます。この成就を待っている間、私たち人間は被造界と貧しい人々を必死になって守り、聖体においていのちの主は、私たちに光とこの務めを果たす動機を与えてくださり、それが、私たちの関係の癒しにつながるのです。神の賜物を通して、私たちは他者の権利と被造物に対する自分の義務を認識し、尊重することを学びます。

人間社会に浸透している倫理学は、神との、他者との、被造物との相互関係ネットワークに影響を及ぼしています。「環境への人間のかかわり方は、人間自身へのかかわり方に影

³¹ ヨハネ 1:12 参照。

³² 2ペトロ 1:4。

³³ 教会憲章 1。

³⁴ 典礼憲章 10。

³⁵ ラウダート・シ 236 参照。

³⁶ ラウダート・シ 216-221 参照。

³⁷ ラウダート・シ 243。

響しますし、その逆も言えます。³⁸」「ラウダート・シ」の新造語「総合的なエコロジー (integral ecology)」は、これら三つの人間関係のすべてを包含し、それが一つの物語を形成しています。³⁹

ベネディクト16世は教皇就任の説教で、こう言っています：「内的な意味での荒れ野があまりにも広大であるがゆえに、外的な意味での世の荒れ野が広がっています」。こうした理由で、生態学的危機は、心からの回心への召喚状でもあります⁴⁰。このような人間としての霊的な成熟の基本にあるのは、全被造物が明確に三位一体的な痕跡をとどめているとするキリスト教信仰の根本的真実です。⁴¹

教皇フランシスコは、自らアシジの聖フランシスコの名前を選んだという事実を忘れてはいません。このアシジの聖なる貧者は、自然を、神がそこで私たちに語りかけ、ご自身の無限の美や善を垣間見させてくれる、壮麗な一冊の本とみなすように誘います。⁴²このアシジの聖人のカリスマ的な単純さは、神と、他者と、被造物との調和は分かちがたいものであること—それこそは、総合的な (インテグラル) エコロジーの概念なのです—を、私たちに再び示してくれます。⁴³

³⁸ 真理に根ざした愛 51。

³⁹ ラウダート・シ 10, 137-162 参照。

⁴⁰ ラウダート・シ 217 参照。

⁴¹ ラウダート・シ 238-240 参照。

⁴² ラウダート・シ 12 参照。

⁴³ ラウダート・シ 10 参照。

フランシスカンの側面



聖フランシスコは聖ヨハネ・パウロ2世教皇によって「エコロジーを愛する人々の守護聖人」と宣言されました⁴⁴。聖フランシスコをエコロジーと結びつけるのもむべなるかなです。なぜなら、彼がすべての被造物と特別な関係を持っていたことは、その書き物や伝記にも十分に裏付けられている特徴だからです。

天地の被造物に対するフランシスコの観想的な眼差しを表しているのは、特に「兄弟なる太陽の歌」です。その中で彼は、「この兄弟は美しく、大きな輝きをもって光り輝き、あなたのお姿を帯びています、いと高き方よ」(*de te, Altissimo, portano significazione*)と称えています。「太陽の歌」の最初の方に出てくるこの言葉は、万物を尊敬することが最も重要であることを示しています。すべての現実は、その創造主なる神を指し示しているからです。フランシスコは、唯一の創造主であり万物の主は神であることに気づいており、それゆえに、人間をすべての所有者と考える支配権と所有権の論理的根拠に挑戦するに至ったのです。私たちは所有者ではなく、神からすべての人に与えられた賜物の受益者に過ぎません。この「賜物の原理」が、神の愛のしるしである被造物への尊敬の気持ちを起こさせ、この賜物を他者と分かち合う能力を生み出すのです。賜物は、自分だけに与えられた所有物ではあり得ないからです。賜物により、兄弟姉妹の絆というものが認識され、そこからフランシスコは、すべての被造物に「兄弟なる」とか「姉妹なる」という名称をつけるようになったのです。

私たちフランシスカンは、兄弟なる太陽とか姉妹なる月、兄弟なる火とか姉妹なる水という言葉聞き慣れています。でも、ちょっと立ち止まって考えてみれば、これらは、本当は珍しい表現なのではないでしょうか。風が兄弟だなんて、どういう意味なのでしょう。他人を兄弟とか姉妹とか言うのはわかります。でも、どうして、岩とか植物を兄弟姉妹と呼べるのでしょうか？

そのことは、フランシスコが直感し体験した姉妹性・兄弟性が単に人間の現実のみを指しているのではなく、宇宙をも指しているということで説明がつきます。兄弟性・姉妹性は、すべての被造物にまで及んでおり、創造主であり父である神を共にいただいているという単純な事実から来る兄弟姉妹の普遍的絆を表しています。

フランシスコは、自分と兄弟たちのために選んだ「より小さい兄弟たち」という名称によって、私たちの兄弟的絆をより小さい者としての気づきに結びつけているのです。他者に対しても、またすべての被造物に対してもより小さくあるということを、フランシスコは「諸徳への挨拶」の最後の部分で次のように教えています：「聖なる従順は、体と肉の、

⁴⁴ 1979年11月29日。

あらゆる望みを打ち砕き、克服したその体を霊と兄弟とに従わせる。従順によって、人は世にいるすべての人に服従し、人だけでなく、あらゆる獣や野獣にまで服従する。その結果、人も獣も、この人に、主が上からお与えになる限り、自分の望みのままに行える⁴⁵」。ここで従順という言葉で表現されているミノリタス（より小さくあること）は、宇宙全体にまで及んでおり、自らを獣やあらゆる被造物にまで広げています。

ですから、フランシスコの足跡に従う私たちフランシスカンがエコロジーに深く関わること（コミットメント）の最も深い動機は、神学的な動機なのです。神は、万物の創造主ですから、万物は神の被造物として尊敬を要求するわけです。神は被造物を一部のものに対してではなく、すべてのものにお与えくださったからです。

会憲 71 条では、このテーマを扱い、こう記されています：「聖フランシスコの足跡をたどる兄弟たちは、今日至る所で脅かされている自然に対して尊敬の念を示す。このように創造主である神の栄光のために、自然を兄弟とする関わりを十全に回復し、すべての人間の益とならせる。」また、会憲第 1 条の最後には、私たちのアイデンティティーの基盤が記されています。第 1 条 2 項は、2003 年の総集会で修正され、次の言葉が追加されています：「全世界に福音を告げ知らせ、和解と平和と正義を、行ないをもって説き、被造物に対する大きな敬意を示さなければならない。」私たちがともに暮らす家を大切にすることは、私たちのカリスマの本質を成すものであり、「より小さい兄弟」としてのアイデンティティーを完璧に表そうと思うならば、「被造物への敬意」を語らざるを得ないのです。敬意（ラテン語で *reverentiam*）という語が選ばれたのは、まさに、それが大切にすることを意味するだけでなく、私たちが真により小さい兄弟にしてくれる「ミノリタス」と宇宙的な兄弟性（*universal fellowship*）に不可欠の態度でもあるからです。

2015 年の夏以降、「ラウダート・シ」の発行に伴い、一層はっきりしてきたことは、フランシスカンが、エコロジー問題に注意を払うことは別に強制されるようなことではないとか、一種のオプションだと考えることはできなくなったということです。教皇がこの回勅の中で述べている「総合的なエコロジー」という概念は、すべてのキリスト者に課せられた最も重要な任務であり、すべてのフランシスカンにとってはなおさらです。なぜなら、教皇は自らの「エコロジカルな回心」への召しだしをアシジのフランシスコという人物に結びつけることを願っており、フランシスコのことは、本文に何度も引用されているからです。そして、この回勅のタイトルもフランシスコに由来しているからです。

とはいえ、私たちフランシスカンがなぜエコロジーに深く関わるのかという理論的理由を知るだけでは不十分です。個人としての信念にまで発展させる必要があります。フランシスコに焦点を当て、会憲を理解することは確かに役に立ちますが、そうした個人の信念の本質的要素を形成するのは、自らをフランシスカンとして養成する任務は他の誰にも担い得ないということへの、そして、「小さき兄弟は聖霊の働きのもとに、自己の養成の主役

⁴⁵ 諸徳への挨拶 14-18。

をつとめる」⁴⁶という個人的な選択をしなければならないということへの気づきです。「自己の養成の主役をつとめる」兄弟だけが、私たちの召命が現代において求められている「エコロジカルな回心」のプロセスをたどることができます。

⁴⁶ 養成綱領 40。

科学的側面



現実と自然界をより完全な形で理解するのに、科学は積極的に貢献してきました。科学はまた、世界に対する新たな責任意識を人間の中に芽生えさせ、世界とその歴史における人間の役割という問題を提起しつつ、神の超越性に私たちが気づくのに一役買いました。それだけでなく、私たちが暮らすこの世界の現実についてもっと真剣に対話するように、人間社会を巻き込みながら、人間の思考の多くに重要な貢献をしてきました。

しかも、人間に自然界を理解させるのに寄与したその同じ科学によって、科学の限界はいつそう明らかになったのです。自然界は単一のシステムによる結果ではなく、生物圏と生態系といった多くのシステムが複合した結果であると科学は主張します。自然界はまた、歴史、文化、言語、人間関係などの影響も受けています。自然界に関する現代の諸問題を解決するためには、教皇フランシスコが「ラウダート・シ」の中で指摘しているように、「環境を他のことから分離して問題にするのではなく、それぞれ別個には取り扱い得ないものである」⁴⁷ことを問い詰めなくてはなりません。自然界に影響を及ぼす因子の相互作用は、複雑な結びつきをしていて、一つの説明や一つの解釈は不可能です。まさに、多様な要素が複雑に絡み合っているのです。事実、最も重要な問題は、様々な要因があまりにも多すぎるということではなく、むしろ、自然界の複雑さが、そこに内在する多変数の絶えざる相互作用により、単独の視点からの解釈が非常に難しくなっているという現実から生まれているということです。生物圏や生態系の相互作用、気候変動、自然界を形成する他の多くのシステムといった問題を理解し、さらには、自然界が受けたダメージを修復する方法を見出すことは、科学的方法に頼るだけでは不可能でしょう。一つの構成要素が解明されるたびに、他の諸要素と不可分になっている別の広大な分野が現れるというのは、まさにその典型です。自然界のすべてのシステムには、絶えず相互に関連し、依存しあう極めて多様な要素からできている別のサブシステムがあることに、私たちはいつも気づかされます。これらのシステムの相関性は予測できないことが多く、それゆえに、いつも「違って」いたり、いつも「同じ」だったりする関連性の網が、絶えず生み出されているのです。そのために、現在の諸問題への解決策を見出すことが、とてつもなく難しくなっているわけです。様々な要素とシステムの間にある複雑な相互作用は疑う余地がなく、それが、科学のおかげで私たちが理解できている理由の一つです。しかし、科学は、現在の自然界の諸問題に対して、また、自然界の生物圏や生態系、気候を守るにはどうすればよいかに対しては、部分的で不確実な解決策しか与えてくれません。

これまで述べてきた自然界の特徴はすべて、私たちの関わり方に明らかに影響を与えています。自然界全体と関わるためには、独特のアプローチが必要であることはわかります

⁴⁷ ラウダート・シ 160。

が、だからといって、科学的・分析的アプローチからもっと体系的なアプローチに移行するのが容易というわけではありません。自然界をもっと深く理解するために、また、自然界の保護の問題により良い解決策を見出すために必要なこと、それは、この回勅が提起するアプローチ、すなわち「こうした危機の人的側面と社会的側面を明確に取り上げる総合的な（インテグラル）エコロジー」⁴⁸です。

総合的なエコロジーが求めているのは、科学の正確な表現法を超えて、人類の本質に関わるカテゴリーとつないでくれるアプローチを受け入れることです。つまり、霊的、倫理的、文化的、且つ人間関係的な側面のカテゴリーにつながるアプローチです。

この観点から考えると、科学の果たすべき役割とは何でしょうか？

自然界、生態系、生物圏、気候、人類文化などに関する今日の諸問題を識別し、理解し、説明するのに科学は不可欠です。科学はまた、解決策も示してくれますが、科学だけではその提示した諸問題を解決する能力はありません。科学の主たる役割は（問題を明らかにし、解決策を探るだけでなく）、気づきと責任感を呼び覚まし、特に政治・経済の分野で、より大きな世界的規模を持つ他のアプローチと連携する場をつくることです。ここでも、哲学や神学、倫理学などの重層的な分野だけでなく、新たに出現しつつあるアプローチとも対話する科学の可能性と必要性に気づくことを希望してもいいのではないのでしょうか。これらのアプローチは、科学の限界を押し上げるかもしれませんが、なおも科学の力を保持することでしょう。科学は、こうしてより全体的で体系的なアプローチの確立に寄与しながら、総合的な（インテグラル）エコロジーの構築の土台となるはずです。そして、私たちが暮らす自然界とこの世界が直面する諸問題へのより大規模でより持続可能な解決策をもたらしてくれるでしょう。

⁴⁸ ラウダート・シ 137。

実践



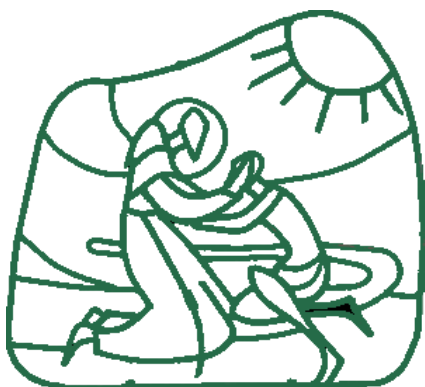
フランシスカンである私たちは、「生態学的危機に対して何をなすべきか」というよりも、「生態学的危機の渦中であって何をなすべきか」という問いに答えるように求められています。私たちは、この状況がどのような影響を与えてきたのかを自分に問うてみなくてはなりません。そうして初めて、どのように対処すべきか立場をはっきりさせることができるのです。まず、この世の霊性からスタートし、自らを問題の一部と感じると同時に、宇宙の一部と感ずることが必要です。さもないと、この危機を、致命傷を与えつつあるのに、自分の生活から遠いところで起こっていると考え、自分のものとして捉えずに遠くの

国々での出来事として見過ごしてしまう恐れがあります。

最後に、姉妹なる大地のどこを破壊しても、すべての人が影響を受け、世界全体に大きなインパクトを与えることを忘れてはなりません。あらゆるものは相互に関係しているからです⁴⁹。私たちは自分が暮らしているこの世界に気を配り、地球の叫びに耳を傾けなくてはなりません。そのようにして初めて、私たちの霊性が日常生活で影響力を持つのです。

⁴⁹ ラウダート・シ 92 参照。

1. 私たちの生活様式を見直す



各兄弟共同体で、環境という視点から生活様式について話し合うようにお勧めします。一般に、行動を促す挑戦や招きのほとんどは外界に向けられていると考える傾向がありますが、生活様式を改めるようにとの招きは、まず第一に私たち自身と私たちの兄弟共同体に関わるものです。各兄弟共同体で一人ひとりが気候変動の問題をどのように捉えているかを、まず個人のレベルで、次に共同体のレベルで話し合うことは、非常に有益であると思われます。

「ラウダート・シ」の第一章は、時のしるしを読むことに費やされており、教皇フランシスコはこう述べています：「ただし、皆がともに暮らす家が著しく傷つけられていることを理解するためには、事実への率直な視線だけはどうしても必要です。⁵⁰」この回勅の第一章は、六つの分野を注意深い分析が必要であるとして提起しています。それらをこの手引書の中にも紹介しておきます。教会の公の教え（Magisterium）に根ざして、省察の堅固な礎になると信じるからです。独りで考えたり、皆で分かち合ったりするために、各分野の要約を以下に示します。⁵¹

汚染と気候変動（ラウダート・シ 20-26）

人々が日常的に被っている様々な形態の汚染があります。毎年、数億トンもの廃棄物が生じています。その多くは生分解性を有さず、高い毒性と放射性をもっています。こうした問題は、「使い捨て」文化と密接につながっています。気候変動については、教皇は、気候システムの憂慮すべき温暖化を目撃しているということを示す、非常に堅固な科学的コンセンサスがある、と述べています。

水問題（同 27-31）

清潔な飲み水は、最重要課題です。なぜなら、それは人命にとって、また地圏や水圏の生態系の維持にとって、なくてはならないものだからです。安全な飲み水を入手することは、基本的で普遍的な人権である、とこの回勅は明確に述べています。

生物多様性の喪失（同 32-42）

動植物種の絶滅を思い描くことなど不可能です。生物多様性が失われれば、必要な資源が消滅するだけでなく、それ自体で価値を持つ種までが消滅してしまいます。すべての被造物はつながっており、すべての人間は相互依存しているという事実を私たちは認識しなければなりません。

⁵⁰ ラウダート・シ 61。

⁵¹詳しくは次を参照：“Guide to the study of the Encyclical *Laudato si'*,” prepared by the JPIC Working Group of the Franciscan family in Rome, “Romans VI.” Languages: English, Spanish, Italian, German, French, Indonesian, Korean, Portuguese. <http://francis35.org/>

生活の質の低下と社会の崩壊（同 43-47）

私たちは、環境悪化や現今の開発モデルや使い捨て文化が人々の生活に及ぼす影響を考えないわけにはいきません。これらの影響を分析した結果、過去 200 年の成長が必ずしも全人的発展や生活の質の向上にはつながらなかったことがわかっています。

地球環境の不平等（同 48-52）

教皇フランシスコは、「環境と社会の悪化は、地球上のもっとも弱い人々に影響します」と述べています。あらゆる環境破壊によるもっとも重大な影響は、地球の住民の大半を占める貧困に苦しむ人々と辺境に追いやられた人々が被るのです。彼らのことは国際的な議論で取り上げられはしますが、副次的被害として付け足されるだけのことがしばしばです。

反応の鈍さ（同 53-59）

この 200 年間ほど、皆がともに暮らす家を傷つけ、また虐げてきた時代はありませんが、この危機を解決する適切な対策を、私たちはいまだ有していないのです。このことは、国際政治がグローバルな金融テクノロジーに屈服していることを示しています。「社会集団による実際上の変革の試みはどれも、現実離れした夢が引き起こす迷惑行為、回避すべき厄介ごとだと理解されてしまいます。」

II, 新しい生活様式の識別



聖書学的側面

神がお造りになった世界で、私たちは何者で、どこにいるのでしょうか？私たちはいまだに、自分のことを被造界の主人と思っているのでしょうか、それとも世話人と思っているのでしょうか？地球の中心は自分だとでも言うのでしょうか、それとも、神の被造物の一つに過ぎないと認識しているのでしょうか？

神が創造主であると言うことは、すなわち、神の被造物として、私たちは皆がともに暮らす家で兄弟姉妹であるということです。私たちがすべての被造物に対して兄弟姉妹であることを、そして、世界が人間だけのものではなく、皆がともに暮らす、守るべき家なのだということを、私たちは本当に信じているのでしょうか？

イエスは、被造世界との平和と調和のメッセージをもたらしてくださっています。⁵²被造世界の保全と調和を促進するには、どうすればよいのでしょうか？

教会論的側面

私たちの神との、他者との、そして被造世界との関係は密接に依存し合っていることを、私たちはきちんと認識しているのでしょうか？⁵³

私たちは、全被造物が喜びにあふれ一つになって礼拝する聖体祭儀を、宇宙的な愛の行為と捉えて、大切にしているのでしょうか？⁵⁴

私たちはフランシスカンとして、質素なライフスタイルを営みながら、聖体からインスピレーションをもらって、他の善意の人々と共に環境保護に携わっているのでしょうか？⁵⁵

フランシスカンの側面

私たちがエコロジーに深く関わる（エコロジカル・コミットメント）最も深い理由とは「神学的」理由であること、つまり、エコロジーが万物の創造主である神を指していることを、私たちは本当に認識しているのでしょうか？

私たちフランシスカンは、すべての人々およびすべての被造物に対する普遍的な姉妹愛・兄弟愛の真のしるしとなっているのでしょうか？私たちのすべての人々との兄弟的な関係は、より小さい者としての関係になっているのでしょうか？自分が最も小さき者となっているの

⁵² マタイ 8-27、ヨハネ 1:1-18、コロサイ 1:16 参照。

⁵³ *Caritas in Veritate* (真理に根ざした愛)⁵¹ 及びラウダート・シ 137-162 参照。

⁵⁴ ラウダート・シ 236 参照。

⁵⁵ ラウダート・シ 10、236 参照。

でしょうか？

科学的側面

生態系、気候変動、生物圏、その他自然界を構成する多くのシステムの相互作用から生まれる諸問題を、今日の科学はどのように理解しているのでしょうか？科学はどのような解決策を見出したのでしょうか？

現在の気候問題に対する適切な解決策を見出すためには、常に二つの課題と向き合わなければならないことを、私たちは了解しているのでしょうか？つまり、環境の分野と教育（社会）の分野です。なぜなら、この二つは総合的（インテグラル）エコロジーにおいては、実際には一つの問題を成しているからです。

科学的で社会的な討論についてですが、責任ある、持続可能で総合的な方法で共に行動するために、「広範で責任ある、科学的で社会的な討論、入手可能なすべての情報を考慮にいれ、率直に話せる討論」⁵⁶が確実に行われるようにするためには、どうすればよいのでしょうか？

現在の気候問題に取り組むためのより体系的なアプローチを構築するには、どうすればよいのでしょうか？

「ラウダート・シ」の第一章

皆がともに暮らす家である地球が深刻な破損状態にあるとの教皇の意見に、あなたは賛成しますか？この意見を支持するために、どのような証拠を提示できるのでしょうか？

近年地球温暖化の原因についての白熱した議論が行われています。原因はいろいろありますが、最も重大な原因は人間の活動に起因していると教皇は述べています。あなたはどう思いますか？

⁵⁶ ラウダート・シ 135。

III. 新しいライフスタイルを生きる

兄弟共同体と構成単位（管区または分管区）のためのプラン



気候変動の原因に対処するために、私たちは個人として、共同体として、また社会として何ができるでしょうか？

この小冊子の中でご紹介した省察事項に関連して、「被造物の保全が、私たちの生活の一部となり、共同体における私たちの個人的・社会的活動を担うものとなるようなプロジェクトを発展させる」⁵⁷のために、具体的な決定をすることを皆様にお勧めします。辺境へと出かけていくことを約束した小さき兄弟としてのアイデンティティーを意識して、お勧めするのです。このような識別のプロセスを促進するために、これから簡単にいくつかのテーマをご紹介します。詳しくはJPICの文書「小さき兄弟たちの日常生活における被造物への配慮」⁵⁸をご参照ください。

水

水は再生可能ですが、限りある資源です。地球表面の4分の3が水で覆われているとはいえ、人間の活動に使えるのはわずか1パーセントにすぎません。どのような形で使うにせよ（灌漑、冷却、公衆衛生など）、水の蒸発量は増加しています。蒸発する水のすべてが必ずしも地球の陸地表面に戻ってくるわけではありません。蒸発した水分の一部は雨となって海に注がれるからです。このため、地球をさらに乾燥させる原因となっている気候変動とあいまって、人間の消費可能な水が減っていくのです。ですから、私たちの目標は、供給を増やすことではなく、もっと責任ある消費の仕方であるべきです。

実際に役立つアドバイス：シャワーなどの時に水を無駄にしないこと；自宅の水漏れをチェックすること；庭の水やりは夜間か早朝に行うこと；残りかす（油）を捨てないこと；家庭用の蛇口を低消費のものにすること；自宅の水道のメーターを毎月チェックすること。

私たちの共同体では、どうすれば水の消費を減らせるでしょうか？

エネルギー

人間が日常活動を行うためには、エネルギーが必要です。身の回りには操作す

⁵⁷ 福音の喜びをたずさえて辺境へと出かけていく、決定事項 11。

⁵⁸ For further study see the document itself, available in English, Spanish, Italian, German.

http://www.ofm.org/ofm?page_id=439&lang=en 日本語版は以下で入手可能

[http://www.ofm-j.or.jp/doc/CareForCreationInTheDailyLifeOfTheFriarsMinorA5\(JP\).pdf](http://www.ofm-j.or.jp/doc/CareForCreationInTheDailyLifeOfTheFriarsMinorA5(JP).pdf)、

<http://www.ofm-j.or.jp/doc/Care-for-Creation-In-The-Daily-Life-Of-T-OFM-Curia.epub>、

<http://www.ofm-j.or.jp/doc/Care-for-Creation-In-The-Daily-Life-Of-T-OFM-Curia.mobi>

るのにエネルギーが必要です。少なくとも、それらが生産されるときにエネルギーが使われています。このエネルギーを生み出すために、多量の化石燃料（石油、石炭、天然ガスなど）が燃やされますが、それが二酸化炭素のようなガスを放出する原因となり、気候変動の主原因の一つである「温室効果ガス」をもたらします。これらのガス量が増大することで、大気圏の内外のエネルギー交換に変化をきたし、気候変動を誘発して、地球のバランスを崩します。

実際に役立つアドバイス：部屋を出るときには照明を消すこと；電気器具は使用後はプラグを抜くこと；自然光を最大限に利用すること；エアコンに頼りすぎないようにすること；LED 製品を買うこと；再生可能エネルギーを選ぶこと；できるだけエネルギー効率の良い器具を買うこと；太陽電池パネルを設置すること；毎月メーターで電力消費量をチェックすること。

何ができるか？効率の良い、節約的で持続可能なエネルギー使用を促進するために皆で検討し、決断しなさい。

ゴミと廃棄物

消費主義は、天然資源の浪費、汚染、あらゆる種類の廃棄物の増加と密接につながっています。そのような消費に必要な原材料をどこから絞り出すのでしょうか？これらのゴミをどこに片づけるのでしょうか？自然界の原材料供給能力にも廃棄物吸収能力にも限界があることを、忘れてはなりません。

実際に役立つアドバイス：使い捨て製品、特にプラスチックや PET 製品は極力使わないようにすること；段ボールや紙袋、封筒などのゴミは再利用すること；再生材から作られた製品を選ぶこと。ゴミのリサイクルを促進すること。

家ではどんな使い捨て製品が使われていますか？そのうちどれが代替可能で、使わずに済むでしょうか？再利用可能な製品とは、再生可能な製品とは何でしょうか？

紙

紙は私たちが日常頻繁に使うものですが、その生産には、たくさんの樹木の伐採と生育の速い種の植栽を必要とします。その結果、私たちが使用する木材の産出国である貧しい国々では特に、砂漠化と生態系変化の危険が生じています。知ってのとおり、森林は地球上の生命のバランスを維持するのに不可欠なのです。

実際に役立つアドバイス：紙の使用を減らすこと。何でも印刷する前に、それが本当に必要か考えてみる。両面印刷にし、再生紙や環境に優しい紙を使うこと。包装紙は再利用すること。紙と段ボールを分別し、それぞれリサイクル用のコンテナに入れること。

私たちに何ができるでしょうか？

交通機関（輸送）

人や物の移動には、大気中に温室効果ガスを放出すること（ガソリンやその派生品を通して）も含めて、人的・社会的・環境的に高いコストがかかることを認識する必要があります。輸送は、温室効果ガスを生み出す最大要因です。呼吸器疾患や早死、神経系の病気などの多くは、大気汚染が原因です。高速道路や高速鉄道が環境に及ぼす悪影響は言うに及ばず、毎年何千人もの人々が路上で死亡しています。

それでも、交通機関（輸送）は私たちのほとんどすべての活動に不可欠のものであり、これを見過ごすことは合理的ではないでしょう。そこで、代替手段を探し、より持続可能な交通手段を選ぶ必要があります。

実際に役立つアドバイス：修道院の車の使用を見直すこと。できるだけ公共交通機関を利用すること。近距離の場合は自転車か徒歩にすること。低燃費の自動車を買うこと。

私たちの共同体では、このうちのオプション
が可能でしょうか？

食品

食品の生産はますます侵略的になってきています。たとえば、アマゾンの森林は、家畜を飼育する安価な方法ということで特に大豆を栽培するために、焼き払われています。

集約農業は田畑や水を汚染する農薬や化学肥料を使うので、それが食物にも残ります。家畜の飼育はますます工場のようになり、動物たちはまるで組み立てラインの製品のようになっています。底引き網漁は海底を破壊します。多くの科学者は遺伝子組み換え食品や遺伝子操作をされている食品の使用に疑問を抱いています。科学者たちは、有害物質の過剰使用や、隣接する作物の汚染や生物の多様性の喪失によって、遺伝子組み換えが環境や農業に悪影響を及ぼすと指摘しています。

実際に役立つアドバイス：生鮮食品を食べること；ジャンクフードを避け、自然食品や旬の食品を選ぶこと。肉や甘いもの、脂肪を取りすぎないようにすること。食品を無駄にしないこと。

私たちの食物事情を改善するために、何ができるでしょうか？

管区や分管区でエコ計画を立てるのに役立つと思われる資料

1) 「フランシスカンと環境正義：環境の危機と社会正義に直面して」

2011年に総本部のJPIC事務局で作成。この文書の狙いは、フランシスカンの霊性に基づく環境危機対策を、グローバル化した世界に新しい倫理観を提案しつる、示すことです。この文書はまた、本会の一部の共同体の実例を紹介しています。この文書は、時のしるしを読むようにとの招きでもあります。

日本語版は下記にて入手可能：

[http://www.ofm-j.or.jp/doc/FranciscansAndEnvironmentalJusticeA5\(JP\).pdf](http://www.ofm-j.or.jp/doc/FranciscansAndEnvironmentalJusticeA5(JP).pdf)

英語版は下記にて入手可能：

http://www.ofm.org/01docum/jpic/EnvironmentalJustice_ENG.pdf

2) 「現世においては旅人であり、寄留の身である」会憲第四章に基づく生涯養成のための資料

特に第三章の「被造物の擁護者」は、環境悪化問題を扱い、キリスト者およびフランシスカンの視点から論じています。会のあらゆるところから集めた体験が一部紹介されており、聖書や教会の文書、フランシスコ会の源泉資料に基づいて、個人および兄弟共同体のライフプランを実行するための提案がなされています。

日本語版は下記にて入手可能：

[http://www.ofm-j.or.jp/doc/Pilgrims-and-strangers-JP\(A5\).pdf](http://www.ofm-j.or.jp/doc/Pilgrims-and-strangers-JP(A5).pdf)

英語版は下記にて入手可能：

<http://www.ofm.org/01docum/jpic/sussidioING.pdf>

被造物とともにささげるキリスト者の祈り

父よ、

あなたが創られたすべてのものとともに、あなたを称えます。

すべてのものは、全能のみ手から生み出されたもの。

すべてのものはあなたのもの、あなたの現存と優しい愛に満たされています。

あなたは称えられますように。

神の子イエスよ、

万物は、あなたによって造られました。

あなたは母マリアの胎内で形づくられ、

この地球の一部となられ、

人間のまなざしで、この世界をご覧になりました。
あなたは復活の栄光をもって、
すべての被造物の中に今日も生きておられます。
あなたは称えられますように。

聖霊よ、あなたはその光によって、
この世界を御父の愛へと導き、
苦しみにうめく被造物に寄り添ってくださいます。
あなたはまた、私たちの心に住まい、
善をなすよう、私たちを息吹かれます。
あなたは称えられますように。

三一の主、無限の愛の驚くべき交わりよ、
私たちに教えてください
宇宙の美しさの中で
すべてのものがあなたについて語る場で、
あなたを観想することを。
あなたがお造りになったすべての存在にふさわしい、
賛美と感謝を呼び覚ましてください。
存在するすべてのものと
深く結ばれていると感じる恵みをお与えください。

愛の神よ、
地球上のすべての被造物へのあなたの愛の道具として、
この世界での私たちの役割をお示してください。
あなたに忘れ去られるものは何一つないからです。
無関心の罪に陥らせず、
共通善を愛し、弱い人々を支え、
私たちの住むこの世界を大切にできるよう、
権力や財力をもつ人々を照らしてください。

貧しい人々と地球とが叫んでいます。
おお、主よ、すべてのいのちを守るため、
よりよい未来をひらくため、
あなたの力と光で私たちをとらえてください。
正義と平和と愛と美が遅配する、あなたのみ国の到来のために。
あなたは称えられますように。
アーメン。

私の主、あなたはたたえられますように、
兄弟火によって。
この火をもって、
あなたは夜を照らします。
火は美しく、喜ばしく、
たくましく、力強い。

私の主、あなたたたえられますように
私たちの姉妹、母である大地によって。
大地は、私たちを養い、導く。
また、さまざまの実と
色とりどりの草花を生み出す。

私の主、あなたはたたえられますように、
あなたへの愛のゆえにゆるし、
病いと苦しみを耐え忍ぶ者によって。

平和のうちに耐える人は幸い。
その人は、
この上なく高い方、
あなたから栄冠を受けるでしょう。

私の主、あなたはたたえられますように
私たちの姉妹体の死によって。
生きる者誰一人
この姉妹から逃れられません。
大罪のうちに死ぬ人々は、災い。
あなたの至聖な御意志のうちに、
この姉妹を見出す人々は幸い。
第二の死も、この人々を害することはできない。

私の主をほめたたえなさい。
主に感謝し、

深くへりくだって、主に仕えなさい。(Fr.渡辺義行 o.f.m.訳)

この冊子は以下からダウンロード出来ます。
<http://www.ofm-j.or.jp/doc/LaudatoSi-OFM-StudyGuideJP.pdf>

地球の叫びと貧しい人々の叫び
被造物の保護に関する OFM スタディガイド
2016年 OFMローマ総本部
106-0032
東京都港区六本木4-2-39
フランシスコ会日本管区
03-3403-8088
<http://www.ofm-j.or.jp/>